

# 鹿児島における子どもの生活実態と家族生活

神 田 嘉 延\*

(1990年10月11日 受理)

Children Living Conditions and Family Life in Kagoshima

Yoshinobu KANDA

## 目 次

はじめに

- (1) 調査対象地域の特性
- (2) 子どもの生活習慣・生活リズムの実態
- (3) 消費に関する親子関係
- (4) 家族の共同生活の場・家族団らん
- (5) 親子との会話問題
- (6) 子どもの進路問題と子どもの生活

ま と め

## は じ め に

本稿は、鹿児島における子どもの生活実態を家族との関係で明らかにするものである。この問題を明らかにする一つの方法として、小学校5年生から中学3年生にアンケート調査を実施した。アンケート調査は、学級担任を通して実施した。

アンケート調査は1987年11月から12月と88年6月から7月に鹿児島県内5地区で実施した。調査地区とその回収児童・生徒数は、南薩の穎娃町301名、北薩の高尾野町682名、鹿児島市の新興住宅地帯691名、霧島町381名、桜島町182名、合計2,237名の回収である。調査対象の子どもの学年ごとの数は、小学5年366名、小学6年411名、中学1年440名、中学2年548名、中学3年465名である。男女比では、男子1,129名、女子1,099名である。

本稿では、地域的な特性と社会階級・階層的視点の側面から子どもの生活問題を明らかにしていくものである。その手がかりとして、5つの異なる地域、父親の職業、母の仕事、家族状況をベースとして、次の6点について問題にしていく。それは、1. 子どもの生活習慣・生活リズム、2. 消費に関する親子関係、3. 家族生活の共同の場・家族団らん、4. 親子の接触の条件、5. 親子

---

\* 鹿児島大学教育学科

の会話と子どもの進路, 6. 子どもの家事の役割分担との関係の6領域の分析である。

とくに, 社会階層的視点からの問題のなかで母子家庭, 父子家庭での子どもの生活状況についても, 職業的な違いや母親の仕事の状況とともに重視して問題を分析していく。

### (1) 調査対象地域の特性

鹿児島の子どものいる世帯の特徴は, 夫婦と子どもからなる世帯が76%と島根県の46.8%や全国の郡部50%とに比較して高く, 他の農村部をかかえて, 過疎化が進行している県と大きく異なるところである(国勢85年より)。鹿児島県は全国一の過疎のかかえる市町村自治体の多い県であり, 過疎比率は76%である。県民所得も沖縄, 青森について, 下から3番目の低い所得の県である。所得は国全体の平均より4分の3しかなく, 東京に比べると半分以下の所得である。

さらに, 鹿児島においても所得の格差は大きく, 県平均よりも70%代39町村, 60%12町村, 50%3町村となっている。これらの県平均よりも80%以下の低所得の市町村は, 鹿児島県全体の約6割近くになっているのである。これに対して鹿児島市は, 30%ほど県平均よりも高い所得である。(87年度市町村民所得)

表1 85年国勢調査による職業別構成, 雇用者率, 人口増減率

(百分比)

		額 娃 町	高 尾 野 町	鹿 児 島 市	霧 島 町	桜 島 町
専 門 的 技 術		6.2	6.2	12.9	7.9	4.8
管 理 的		—	1.7	4.5	1.7	1.6
事 務		6.9	8.2	22.1	10.7	17.2
販 売		7.2	6.5	19.4	7.7	11.8
農 林 漁 業		49.5	42.6	2.2	28.3	27.5
運 輸 ・ 通 信		4.7	3.3	5.1	4.2	8.1
技 能 工 ・ 生 産 工 程 作 業 員		19.2	28.3	23.4	27.4	23.9
サ ー ビ ス		4.3	2.9	8.8	11.2	4.2
男 女 別	男	53.0	54.3	59.5	55.6	53.8
	女	47.0	45.7	40.5	44.4	46.2
全 体		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
( 全 体 数 )		9,142	6,965	226,814	3,063	2,962
人 口		17,138	12,999	530,502	6,118	5,593
雇 用 者 率	男	44.2	50.0	75.3	56.4	64.1
	女	37.9	44.2	74.9	58.1	63.1
	全 体	41.2	47.3	75.2	57.1	62.9
人 口 の 増 減 率 (80年~85年)		-1.5	2.5	5.0	-1.0	-8.3

アンケート調査対象地区の市町村民所得は霧島町78.8%, 桜島町84.2%, 額娃町83.9%, 高尾野町83.8%といずれも鹿児島市以外県平均低い所得の地域である。また, 市町村別の24歳までの青少

年人口は、鹿児島市38.3%、桜島31.2%、穎娃町28.1%、高尾野町31.4%、霧島町29.3%と青少年の人口構成の比率も鹿児島市と他の郡部の町村では、大きく異なるのである。

アンケートに回答した児童・生徒の父親の職業は、表2に示すように、農林漁業15.2%、公務員・農協職員11.1%、会社員肉体労働27.1%、会社員事務労働11.8%、専門労働4.9%、商工自営13.7%となっている。母親の仕事については、表3に示すように、専業主婦22.4%、パート15.4%、常勤27.3%、自営27.3%である。アンケートに答えた子どもの多くの母親は、仕事をもっているのが現実である。

表2 地区別調査対象子どもの父親の仕事別 (百分比)

	農林漁業	公務員 農協職員	会社員 肉体労働	会社員 事務労働	専門的 労働	商工 自営	その他	父は いない	計
えい町	51.2	12.0	17.3	2.0	2.7	6.0	5.1	4.0	100.0
高尾野町	16.9	8.8	33.4	9.2	5.0	12.9	6.5	7.3	100.0
鹿児島市	1.3	8.7	20.4	22.9	5.5	19.8	11.4	10.0	100.0
霧島町	8.1	14.7	34.1	5.5	7.1	11.8	11.8	6.8	100.0
桜島地区	17.0	20.3	30.8	8.8	1.6	9.9	6.0	5.5	100.0
全体	15.2	11.1	27.1	11.8	4.9	13.7	8.7	7.5	100.0

表3 地区別調査対象子どもの母親の仕事別 (百分比)

	専業	内職	自営業	パート	常勤	母いない	その他	計
えい町	16.6	5.6	53.8	4.3	17.3	1.0	1.3	100.0
高尾野町	16.3	5.6	23.9	15.7	34.2	1.9	2.5	100.0
鹿児島市	30.2	3.5	20.4	14.6	25.0	2.5	3.8	100.0
霧島町	24.4	3.4	19.9	22.3	25.2	2.9	1.8	100.0
桜島地区	21.2	5.5	12.6	21.4	30.8	2.7	5.5	100.0
全体	22.4	4.6	25.3	15.4	27.3	2.2	2.9	100.0

父親の仕事が農林漁業の最も比率の高いのは、穎娃町で51.2%の子どもが農業と答えているが、同じ農村の高尾野町16.9%、桜島17.0%と農村地域において、父親の仕事が農業と回答する子どもは少なくなっている。農村地域では、父親の仕事が体を動かして働く肉体労働の会社員とする子どもの比率が高くなっている。その比率は高尾野町33.4%、桜島30.8%である。農山村の温泉観光地の霧島でも、父親の仕事の最も高いのは、体を動かして働く肉体労働の会社員34.1%である。

ところで、事務的労働や商工自営の比率の高いのは鹿児島市である。地域的に専業主婦の比率の高いのは、鹿児島市で30.1%であるが、その比率の低い農村地域の高尾野町16.3%、穎娃町16.6%と鹿児島市の半数の割合である。農村地域では、多くの母親は仕事をもっているのであるが、それは、農業労働とは限らず、高尾野町では、農村工業に婦人労働力として母親が動員されており、常勤が34.2%、パートが15.7%になっている。

これに対して、同じ農村地域の頴娃町は母親の仕事を自営業と答えた子どもが53.8%にあがっており、常勤17.3%、パート4.3%と農業外労働での仕事が高尾野町と比較すると少なくなっている。鹿児島市で、母親の仕事を常勤と答えた子どもは25.5%、パート14.6%である。霧島町では、常勤25.2%、パート22.3%と答えており、桜島では、常勤30.8%、パート21.4%と答えている。桜島や霧島では、母親が農業以外のパートや常勤で働いているのが約5割になっているのである。

ところで、母親はいないと答えた子どもは、2.2%、父親はいないと答えた子どもは7.5%である。この数字は1985年国勢調査の結果よりも母子世帯、父子世帯の数字より大きくでている。なお、父親は単身赴任をしていると答えた子どもは3.0%である。父親が現在仕事をしていないと答えた子どもは1.3%であった。父親がいないと答えた子どもが最も比率の高い地域は、鹿児島市で、10.0%と1割になっている。また、鹿児島市は母親がいないと答えた子どもは、2.5%である。

祖父母との同居は、していないと答えたのが全体で71.3%であるが、職業的には農業の家庭が65.9%と最も低く、また、最も高いのが専門的労働の家庭で84.5%である。地域的にも鹿児島市が祖父母との同居をしていない比率が高く、祖父母との同居なしが75.4%を占めている。これに対して、頴娃町で祖父母と同居していないのは67.8%の比率である。桜島では、頴娃町よりも低く、63.2%である。

表4 祖父母との同居の状況

(百分比)

		祖父母と一緒に	祖父のみ	祖母のみ	一緒に住んでいない	計
父 の 職 業	農林水産業	19.7	3.5	10.3	65.9	100.0
	公務員・農協	13.7	3.2	15.3	67.9	100.0
	肉体労働	12.5	3.6	11.4	70.8	100.0
	事務労働	12.1	1.9	11.4	74.6	100.0
	専門的労働	5.5	1.8	7.3	84.5	100.0
	商工自営業	15.7	0.3	10.8	72.5	100.0
母 の 仕 事	専業主婦	11.0	2.8	8.2	77.9	100.0
	内職	13.7	3.9	9.8	71.6	100.0
	自営業	15.9	1.6	12.4	69.2	100.0
	パート	9.6	2.6	10.5	73.5	100.0
	常勤	14.1	3.3	13.1	68.9	100.0
形片 態親	母子家庭	13.2	4.2	14.4	66.5	100.0
	父子家庭	36.7	0.0	16.3	46.9	100.0
地 区	頴娃町	17.9	3.3	10.0	67.8	100.0
	高尾野町	13.2	3.2	12.2	69.6	100.0
	鹿児島市	12.2	2.0	9.8	75.4	100.0
	霧島町	14.2	1.8	8.9	73.4	100.0
	桜島町	14.3	3.3	18.7	63.2	100.0
全 体		13.8	2.6	11.1	71.3	100.0

父親のいない家庭では、祖父母と同居していない世帯が66.5%とやや全体よりも低い極端な差でもない。このことは、父親がいないということで祖父母との同居が特別に数多くでているということの意味していない。しかし、母親がいない家庭になると祖父母と同居36.7%、祖母と同居16.3%と祖父母との同居が5割以上になり、その比率を高くしている。

兄弟・姉妹数は、全体で、1人8.9%、2人41.0%、3人38.0%、4人8.9%、5人以上2.7%となっている。子どもの数についても地域的な違いが大きく現れている。穎娃町の場合、3人48.8%、4人以上14.3%と子どもの数が多い。霧島も3人40.9%、4人以上17.3%である。これに対して、鹿児島市は、3人34.0%、4人以上8.5%と子どもの数が他の地域に比較して少なくなっている。桜島も鹿児島市と同じ傾向を示し、3人24.7%、4人以上6.0%であり、1人だけの子どもが26.4%と高い比率をしめしている。子どもの数が最も低いのが桜島である。

子ども部屋がないと答えた子どもは、全体で11.6%であるが、霧島が子ども部屋をもっていない比率が最も高く、17.3%であり、鹿児島市は13.3%である。高尾野町では、子ども部屋がないと答えた子どもは、わずかに7.8%である。桜島も子ども部屋がないと答えた子どもは8.8%である。子

表5 1つの家庭の子どもの人数

(百分比)

	1人	2人	3人	4人	5人	6人	計
穎娃町	2.7	33.6	48.8	11.3	2.0	1.0	100.0
高尾野町	7.3	41.5	39.3	9.7	1.5	0.4	100.0
鹿児島市	10.3	46.5	34.0	5.9	1.3	1.3	100.0
霧島町	5.5	36.0	40.9	13.6	2.1	1.6	100.0
桜島町	26.4	41.8	24.7	3.3	1.1	1.6	100.0
全体	8.9	41.0	38.0	8.9	1.6	1.1	100.0

ども部屋の有無についても地域的な違いが生まれている。子どもが自分1人で部屋をもっている比率は高尾野48.5%、桜島45.1%と、この2つの地域は1人で子ども部屋をもっている比率を高くしている。桜島は子

表6 子ども部屋の有無

(百分比)

	自分一人の専用部屋	兄弟・姉妹兼用の部屋	子ども部屋なし	計
穎娃町	36.9	49.8	11.0	100.0
高尾野町	48.5	41.6	7.8	100.0
鹿児島市	37.2	46.0	13.3	100.0
霧島町	34.9	44.0	17.3	100.0
桜島町	45.1	44.5	8.8	100.0
全体	40.9	44.8	11.6	100.0

どもの数が1人と答えた子どもは、4人に1人という高い比率をもっていたが、高尾野は7.3%と1人っ子の数の比率はそれほど高くない。これらのことは、子どもの数に限らず、地域的に子どもに自分だけの部屋を与えている状況がみられることを意味しているのである。

(2) 子どもの生活習慣・生活リズムの実態

子どもの生活習慣・生活リズムについて、15項目の質問をだして問題の分析をおこなった。子どもの生活習慣・生活リズムができていくかどうかということで、それぞれ、1.よくできている、2.ややよい、3.少し問題、4.大いに問題というこの質問を4段階にわけて選択枝をつくり、

4段階をよくできているを1点、ややよい2点、少し問題3点、大いに問題4点、無回答2.5点と  
いうことで、これを合算して、点数化した。合算して、23点までを「大変よい」、24点から30点ま  
でを「ややよい」、31点から36点までを「少し問題」、37点以上を「大いに問題」として、全体の生  
活習慣・生活リズムについて再評価した。

表7 生活習慣・生活リズムの評価

(百分比)

		大変よい	ややよい	少し問題	大いに問題	計
父 の 職 業	農 林 漁 業	10.6	54.7	24.4	10.3	100.0
	公務員・農協	19.7	53.0	23.3	4.0	100.0
	肉 体 労 働	19.6	50.0	22.6	7.1	100.0
	事 務 労 働	24.6	49.6	19.3	6.4	100.0
	専 門 的 労 働	25.5	46.4	21.8	6.4	100.0
	商 工 自 営	17.3	54.6	22.5	5.6	100.0
母 の 仕 事	専 業 主 婦	16.5	53.0	22.7	7.8	100.0
	内 職	17.6	50.0	20.6	11.8	100.0
	自 営 業	14.3	55.8	23.4	6.5	100.0
	パ ー ト	21.4	53.8	19.4	5.8	100.0
	常 勤	21.3	48.2	23.4	7.0	100.0
形片 態親	母 子 家 庭	19.8	47.9	23.4	9.0	100.0
	父 子 家 庭	20.4	46.9	22.4	10.2	100.0
地 区	穎 娃 町	12.0	51.8	23.9	12.3	100.0
	高 尾 野 町	14.5	52.5	25.5	7.5	100.0
	鹿 児 島 市	21.3	51.4	20.8	6.5	100.0
	霧 島 町	22.8	51.7	21.3	4.2	100.0
	桜 島 町	22.0	52.7	20.3	4.9	100.0
全 体		18.3	51.9	22.7	7.1	100.0

全体として、大変よいという層18.3%、ややよい51.9%、少し問題22.7%、大いに問題7.1%となっ  
ている。地域的には、大いに問題のある評価の比率の高いのが、穎娃町で12.3%である。また、職  
業的には農業に大いに問題のある評価が高くでている。農業では、子どもの生活習慣・生活リズム  
に、大いに問題のある子どもの比率が10.3%である。父親のいない世帯において、生活習慣・生活  
リズムに大いに問題のある子どもの比率は9.0%である。母親のいない世帯においては、10.2%と  
なっている。

家で内職をしている子どもについても生活習慣・生活リズムに大いに問題のある評価の子どもが  
11.8%と他に比較して高くでている。専業主婦においても決して大いに問題のある評価の子ども  
の比率が相対的に低くない。パートの婦人労働や常勤の婦人労働についても、働いているということ  
で、子どもの生活習慣・生活リズムが大いに問題のある子どもの比率が高いとは限らないのである。

